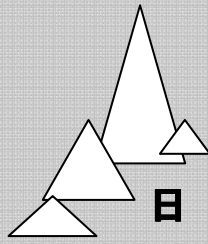


**N**outh **E**ast

**W**est

**S**outh



日本各地の話題

## ヤマビルの忌避剤

11月6日の日本農業新聞によると秋田県立金足農業高校は、吸血被害が深刻化しているヤマビルの被害を食い止めようと、忌避剤を開発し、現在特許出願中。年内の販売を目指している。

以前マガジンで神奈川県秦野地域でヤマビルが増え、生息範囲も広がっていることを「NEWS」にとりあげた。

ヤマビルはミミズの仲間で体長2～7cm。人や動物の血液を餌として「山の吸血鬼」といわれる。



ヤマビル

同校は農家や林家、地域住民が被害にあっていることから、力になりたいと3年前からプロジェクトを立ち上げた。現在は先輩の意思を継ぎ、5人が中心となって取り組んでいる。

まず、地元農家らの聞き取りなどを行い、県内のヤマビルマップを作成。ヤマビルが期性する宿主動物の調査もした。その結果ヤマビルは主にタヌキなどに寄生し、獣害対策が生息数の低減につながることを突き止めた。

つぎに取り掛かったのが忌避剤づくりだ。山に毎日通って1000匹以上のヤマビルを捕獲。紙の中央にヤマビルを置いて、忌避効果の実験を重ねた結果、外の温度が40度以上か5度以下になると、ヤマビルは身動きできなくなることを突き止めた。

温度に反応する特性をつかんだことで忌避剤には冷たい刺激を与えるメントールと、熱い刺激を与える「バニリン」などを配合。肌にやさしいうえ、



東海選手権者 松澤俊行さん（静岡 OLC）と小島優さん（椋山女学園大学）



中日東海ブロック大会 WE 優勝の渡辺円香さん 撮影はいづれも上林弘敏さん

衣服や靴の上からスプレーすれば、効果が1日持続することが分かった。地元農家に配布し、試験的に使ってもらったところ、「子供にも使えて安心」と評価は上々。

こうした成果は東京大学大学院の農学生命科学研究科のゼミや日本農芸学会などで発表し、注目を集めた。

そして、NPO 法人が年内に発売する計画だ。

## 第54回中日東海B大会

## 東海選手権

## 松澤さん連覇

270名あまりの参加があり盛況だった第54回中日東海ブロックオリエンテering大会。その中で東海4県に競技者登録した参加者で最も成績の良かった人に与えられる東海選手権は今年で5回目となる。男子はMEクラスに参加した松澤さんが、連覇で3回目の選手権者となった。女子はWEクラスに該当者がなく、W21Aにて優勝した小島さんが初の選手権者になった。